

高退教

岡山

第 165 号

2021 年 9 月

岡山県高校・障害児学校
退職教職員の会

〒703-8258

岡山市中区西川原255番地

岡山県教育会ビル3F 岡山高教組気付

TEL (086)272-2245

FAX (086)272-2242

目 次

今や、第3次・・・新しい平和論が必要？・・・会長 萱栄次	1
第31回全退教総会 初のリモート開催・・・事務局	1
ZOOM 総会での岡山高退教の発言（要旨）・・・会長 萱栄次	2
解題「岡山水道記念館」について・・・備西支部 武田芳紀	2
「灘崎九条の会」が憲法学習会・・・岡山支部 山本 和弘	3
「自己責任論と憲法」（「灘崎九条の会」学習会レジュメ） ・・・岡山支部 安東 誠	4
連載 憲法とともに歩む人生・・・岡山支部 小林軍治	6
特集 2021 年定期総会 返信ハガキの紹介	11
編集後記	19

今や、第三次・・・ —新しい平和論が必要？—

会長 萱 栄次

私は今まで、戦争とは「人と人」との争いだと考えていました。ところが、現在は、この解釈に修正・追加が必要ではないかと考えています。

最近のコロナ禍を見ていると、まるで「人とコロナ」の戦争です。世界中すべての国々が巻き込まれ、死者 420 万人を超え、感染被害者は、2 億人以上となっています。第 3 次世界対戦といっても決して過言ではありません。

ここ 30 年間で、今までなかった感染症が 30 種類も発生しているとのこと。その原因が動物に由来するものの多くは、人間による森林の無制限な伐採によるものだと言われています。

自然環境を守ることが、私たちの生命を守り、今後、コロナなどの新しい感染症との戦争を終結させることになるのです。

そうです。今や私たちは「平和」の概念を変えなくてはなりません。今までは「平和」とは「人と人」との争いをなくする「人と人との共存」と理解していました。これからは「人と自然との共存」を追加して考えることが必要ではないかと思われます。



ブラジル南東部ミナスジェライス州で、市場周辺を消毒する当局者

第 31 回全退教総会（2021. 6/3・4） 初のリモート開催



写真は ZOOM 会議の模様（高教組会議室にて）

6 月 3 日・4 日の 2 日間、第 31 回「全退教（全日本退職教職員連絡協議会）」総会が、初めての試みとして ZOOM で開催されました。

岡山高退教としては、高教組会議室をお借りし、また、パソコンやプロジェクターなどの機材も利用させていただく事で、不慣れな ZOOM 総会に参加することができました。

初日は、萱栄次会長、小川澄雄事務局次長、山本和弘事務局次長が参加、

二日目は、さらに、小林軍治副会長、藤原斌事務局長もくわえて5名が参加しました。

2日目に行われた討論で、岡山は萱会長が2番目の発言者として登場、概要次のような発言を行い、全国の参加者の共感を呼びました。

ZOOM 総会での萱栄次会長の発言（要旨）

禍転じて福と「なる」－会員との繋がりを大切にした会報の発行

会議二日目に行われた討論での、岡山高退教萱栄次会長の発言要旨をご紹介します。

【発言要旨】

- ・コロナ禍の中で、県や支部での総会や諸行事ができないので、会報の記事がない状況で各支部の会員の方々の原稿協力で発行が実現できました。
- ・大会議案への賛否を問う返信はがきの中で、近況報告を受けた方 77 人分。

その他各支部の方々からの寄稿 27 人分。計 114 名の声を 年 4 回の会報で届けました。

・今年の会報はお互いの様子分かり読みやすいとの声が相次ぎ、いつも以上に好評でした。

・「禍を転じて福と為す」という言葉がありますが、期せずして「福となった」と言うべきかも知れませんが、コロナ禍の中での「わだわいを福に変えた」報告です。



写真は、発言中の萱会長。顔が画面に映し出されています。

解題 「岡山水道記念館」について

備西支部 武田芳紀



この建物は岡山市の水道記念館です。場所は岡山市三埜(みの)の浄水場(と同じ場所)にあります。ここはまた、岡山市の水道局とも呼ばれて、岡山市の水道を管理している施設が広大な敷地に散在しています。記念館の建物はその中央に位置しています。

ところで、岡山市の水道局は、岡山理科大学のすぐ近くにありますが(半田山植物園とも近くです)。実は、岡山市の水道局では、毎年夏になると、施設を開放して、大きな科学イベントが開催され、親子連れをはじめ、たくさんの人が集まります。

そして私の勤務している岡山理科大学の「科学ボランティアセンター」の学

生スタッフ会がそのイベントに協力して、いろんなブースを出しています。残念ながら、今年（2020 年）はコロナ禍の影響でそのイベントも中止になりました。ただ、そのスタッフ会の OG から、今年の 7 月 23 日より、水道記念館が改修となり、中に入ることができなくなると言うニュースを聞きました。記念館は岡山市の水道施設の歴史や概要の展示、また水に関するいろいろな実験装置もあり、親子で楽しめるような工夫もされています。（岡山市に水道が敷かれたのは、横浜、函館などに次いで全国で 8 番目だそうで、当時岡山市にコレラが流行ったことがきっかけとなったことも展示から知りました）

でも何よりも、その外観が素晴らしいのです。

そこで今回、記念館の改修工事で立ち入りができなくなる前にスケッチに行くことにしました。ちょうど、梅雨の雨の切れ目の時で、でもとても暑かった日に出かけて行って描きました！途中、頭がボーッとして熱中症のような感じになりながらも何とか書き上げることができました。しばらくこの施設に入ることができないのは残念ですが、このスケッチで素晴らしい外観を楽しんでいただき、やがて改修が終わった後にまた出かけられることをおすすめします！

※この文章は昨年書いたものです。なお記念館の改修は来年（2022 年）に終了し、その後公開されるとのことです。

・・・・・・・・・・・・・・・・

前号で紹介した「子供の詩（うた）」という作品の作家名ですが、金盛秀は誤りで、正しくは「金盛秀禎（ヒデヨシ）」でした。かつて、岡山県の高校の美術教師もされていたそうです。記してお詫びします。 武田芳紀

「灘崎九条の会」が憲法学習会

岡山支部 山本 和弘

岡山市南区の旧灘崎町在住の有志で作る「灘崎九条の会」は、毎月 9 日に、スタンディングアピールなどを中心に「9 の日行動」を実施していますが、長崎被爆 76 年に当たる今年の 8 月 9 日、「西七区集会場」で、憲法をテーマとした学習会を行いました。



学習会に先立って、世話役の土佐九二男さんのギター伴奏で、うたごえを楽しみました。曲目は「青い空は」、「あの日の授業～新しい憲法のはなし～」など、よく知られた作品に加えて、世に出たばかりの新曲「旅の道標(みちしるべ)」を合唱。これは、同「9条の会」のメンバーの一人である本田ゆみこさんが最近出版された「読む絵本 旅の道標」に収められた作品で、本田さん

の原詩・原曲を音楽家の八木たかしさんが補作したもの。「読む絵本 旅の道標」は、本田さんの詩と、お嬢さんの史さんが描く淡く美しいイラストの数々が優しいハーモニーを奏でる珠玉の詩画集です。

メインの学習会は、地元在住の高退教会員安東誠さんを講師に、「自己責任論と憲法」というテーマで、学習と意見交換を行いました。

「新自由主義のキーワード」としての「自己責任論」は「国家による洗脳」の現代版、との指摘は鋭く胸に響きました。

講師の安東さんの了承を得て、講義レジュメを掲載させていただくことにしました。(今号では一部を掲載し、つづきは次号で紹介させていただきます。)



自己責任論と憲法（灘崎九条の会学習会レジュメ） 岡山支部 安東 誠

はじめに

国家権力が全国民を巻き込む謀略的な政策を強行しようとするとき 最も有効な手段の一つは国家による洗脳だと思います。

無謀な侵略戦争は 治安維持法（死刑法）の下で皇国史観・大東亜共栄圏論をもとにすべての国民を洗脳（マインドコントロール）することによって遂行されたことは歴史が証明しています。

この国民的洗脳を徹底するために、国家権力が手をつけるのが教育です。教育勅語を根幹に据えた小学1年生からの軍国主義教育がそれでした。私たち小国民はこの恐ろしい歴史的事実を決して忘れることはできません。そういう立場から、自己責任論の始まりからコロナ禍の深刻化した現在までの事態の経過を見る時、新自由主義の キーワードとしての自己責任論は、「国家による洗脳」の現代版だと考えます。

1 自己責任論を教育分野の基本に

日本における新自由主義は 1980 年代に始まりました。新自由主義の特徴は簡単に言えば経済のグローバル化、規制緩和、自由選択、受益者負担などによって国家の責任を縮小し、市場原理に任せて失敗も成功も最終的には個人に責任を負わせるところにあります。この個人の責任の正当性を広範な国民に浸透させることが政策の不可欠の条件であることから、自己責任論を教育の分野の柱の一つに据えたのです。それを教育改革の名のもとに進めたことを注意したいと思います。

(1) 臨時教育審議会答申自己責任論明記

1985 年、日本経済調査協議会（経済 4 団体協賛で運営）は「21 世紀に向けた教育を考える」と題する報告書を発表します。提言の形をとりますが自由主義政策推進のための、財界の教育に対する要求と言ってよいでしょう。それを受けてと言って良いと思います。1987 年、臨時教育審議会は答申を発表しました。

「今次教育改革において最も重要なことは、これまでの我が国の根深い病弊である画一性・硬直性・閉鎖性を打破して個人の尊厳、個性の尊重、自由・自立、自己責任の原則、すなわち「個性重視」の原則を確立することである。この「個性重視の原則」に照らして、教育の内容、方法、制度、政策など教育の全分野について抜本的に見直していかなければならない。」（下線は筆者）

以上が答申の中心部分ですが、特に注目しなければならないことがあります。

第一に画一性、硬直性、閉鎖性を打破して、個人の尊厳、個性の尊重、自給。自立、自己責任の原則、すなわち地など三つの事柄を「根深い病弊」として全否定したこと。

第二に、ことさらに憲法 24 条の個人の尊厳を持ち出し、それとかわらせて「自己責任の原則」を明記したこと。

第三に、第二の 規定を「個性重視の原則」なるものに一くくりにし、教育の抜本的見直しを求めていること。

前述したように新自由主義の推進による最終的責任は個人にあるという論理を、「自己責任の原則」として教育の基本に据えることを求めたものであることが本質です。

(2) 学習指導要領の改定一方針の具体化 ー

1989 年学習指導要領が改訂されました。方針を具体化し教育現場での実践を義務付けるものです。特に注目されるのは「新しい学力観」という考え方を示したことです。教科学習の評価に「意欲・関心、態度」を加え、教科内容の知識理解より重要な観点としたことです。

三浦朱門氏の見解（臨教審・教育課程審議会会長）

出来ん者は出来んままで結構。今まで落ちこぼれの底辺を上げることばかりに注いできた努力をできるものを限りなく伸ばすことに振り向ける。100 人に 1 人でいい。やがて、彼らが国を引っ張って行きます。非才・無才にはせめて実直な精神だけを 養ってもらえばいいのです。（ジャーナリスト斎藤貴男氏のインタビューへの談話）

この観点は、分からないのはその子の個性で、自己責任であるとする見解とつながるもので、すべての子どもたちに基礎的学力をという共通の課題だったものを画一性・硬直性として否定し、競争の激化と学力の格差をいっそう拡大する措置です。やがて、「勝ち組」と「負け組」が流行語となり、一握りの「勝ち組」と大多数の「負け組」を生み出すことになります。学習内容だけでなく制度の改変を進めます。「選択の自由」に関わる者の一部だけをあげます。小中高一貫校の設置、学校間格差の承認、通学区域の自由化などです。なかでも子育ての分野への自己責任論の導入は社会問題になりました。公的保育所の削減、統合・廃止・民間企業の参入・基準緩和などは、保育からの公的責任を回避し、選択の自由の名によって個人に責任を負わせる制度の強行です。やがて”保育園落ちた、日本死ね”という母親の痛烈な叫びを生みます。（次号につづく）

連載 憲法とともに歩む人生

備南高校時代（前半）－その３－

岡山支部 小林軍治

はじめに

前々号（163 号）では、生徒の現状と授業環境、備南高校存続問題などについて書いた。前号（164 号）は、社会問題研究同好会（社研）の結成および活動を中心に述べた。今回は、第一回、及び第二回岡山県定時制高校生交流

集会の内容と、定時制の組織化について報告する。

まず、第一回集会開催までの経過を簡単に記述する。1973年6月17日の高校部落研備南地区集会に参加した市立玉島高校・備南高校の生徒・教師が話し合っ、定時制同士の交流の必要性を痛感した。9月8・9日の高校部落研第9回岡山県集会に参加した上記二校は、「定時制の全県集会をしよう」と話し合い、まず二校の交流会をすることを決めた。

9月30日、備南高校の生徒・教師が、市立玉島高校の文化祭、体育祭を見学し、その後、部落研展示場で討論を行い、全県集会の打ち合わせをした。

10月6日、高部研総会(教師の組織)に集まった定時制の教師が話し合い、第9回全国集会を成功させるための一環として、10月28日に岡山市立商業高校で定時制の全県集会を開催することを正式に決めた。

第一回岡山県定時制高校生交流集会

この集会は、県下各地から16校80人の生徒・教師が参加し、次の二つのテーマを掲げて開かれた。(1)「働きながら学ぶ高校生の職場、学園での実態や悩み等を出し合い、現代高校教育と青年労働者の持っている問題点を明らかにする。」(2)「自分達の生い立ちや、なぜ定時制で学ぶようになったかということと、部落問題とのかかわりを明らかにする。」

午前中の全体集会では、会場校の教頭、高校部落研事務局の生徒(東岡工)、及び顧問代表(岡工小川先生)のあいさつに続き、備南高校の生徒より経過説明、市立児島高校の生徒より、学校・職場の実態と、全国集会へ向けた校内実行委員会を組織してとりくんだ報告があった。そして、生徒と教師を含めて、非常になごやかなムードの中で、学校単位で自己紹介を行った。

その後、昼食・休憩時間を利用して、備南高校の教師の指導のもと「ふるさとへ帰ろう」「どこまでも幸せを求めて」「青春」の三曲を、大きな声で歌った。参加者が打ち解けて話し合いがやりやすくなった。

午後からは、教師、生徒に分かれて話し合った。

生徒の分科会では“時間”の問題が、多数の発言者から出された。定時制高校生は、昼間仕事をし、夜になってから学校で勉強している。授業が終わると夜も遅くなっており、それから後の部活動はほとんどできない状態である。部活動以外でも、自分のやりたいこともできにくい。定時制高校生は、全員がまさに“時間とのたたかい”のまっただ中にある。などのことが明らかになった。関連して寮の門限、寮監のこと等、寮のあり方も話された。さらに、学校の施設・設備等が不十分なことも多く出された。

こうして、自分たちのおかれている厳しい状態が多く出されたが、「厳しい状態ばかりいっても仕方がない、もっと考え方を变えて良い面も見よう、気持ち次第で楽しく快く生活できるのではなかろうか」という意見が出た。これに対しては、「気持ちを変えたところで現実にある厳しい状態が解消するわけではない、厳しい状態を出し合った上で、どうしたら解決するのかを考え活動しなければならないのでは」という反論が出て、論議が白熱した。最後に、定時制の交流会、全県規模の集会を今回だけにせず、これからも続けていくことを確認して分科会を終わった。

教師の方は、全国集会へのとりくみと、今後の交流集会の持ち方について話した。全国集会への参加の困難点としては、金・時間及び企業との関係等が出された。また今後の交流については、いずれの学校からもその必要性が強調された。具体的な方法については、高校部落研の中に定時制ブロックという形で位置づけてもらえばということになった。なお、その際にも、定時制の多くは部落研・社研といったクラブのない学校が多いので、あて名は、生徒会とクラブの連名で出して欲しいということになった。

終わりの全体集会では、教師・生徒のそれぞれから話し合いの報告があり、今後もこうした交流会を続けていくことを全員で確認した。最後にみんなで歌を歌ったあと、会場校の教頭から「この集会岡山県の定時制高校にとっては歴史的な集会である」との力強い言葉があり、今後の集まりを楽しみにしながらわかれた。

定時制の組織化

11月2・3・4日、第9回全国集会が、朝日高校・岡山東商高を会場に開催された。この場に定時制から多くの生徒・教師が参加した。市立玉島高校の生徒代表が第2分科会「高校生活と部落問題」で特別報告をした。そこで京都の定時制高校生が司会、レポート提出など集会成功に大きな役割を果たしていることを知り、岡山県での定時制の組織化の必要性を再確認した。

その後11月から12月にかけて開かれた高部研の会議で、定時制の組織化の必要を顧問教師に訴えた。

1974年2月16・17日の高校部落研岡山県委員会に市立玉島・市立児島・備南高校の生徒・教師が参加し、全県の生徒・教師に定時制の組織化について訴えた。その結果、高校部落研の各地区と同じ位置づけで認められ、事務局として備南高校があたることになった。定時制事務局の担当になった小生は、3月9日の新旧事務局会議、5月4日の拡大事務局会議に参加し、5月

19 日に開催する定時制ブロック委員会の準備をしていた。

この間、5 月 3 日には松山高校で交流会を行った。備南高校からは生徒と教師それぞれ 3 人が参加した。松山高校は、福田・馬野先生と、生徒 11 人（2 年生）が参加。それぞれの学校生活、社研部結成に向けた取り組みなどについて話し合った。交流時間が PM 7:00～8:10 と限られていたが、楽しく過ごした。

5 月 19 日、第 1 回定時制ブロック委員会を岡山市立岡山商業高校で開催し、16 校から生徒 12 人教師 17 人が参加した。ここでは、6 月 9 日に開催予定の第 2 回岡山県定時制高校生部落問題研究集会の日程・内容について話し合った。

第 2 回岡山県定時制高校生部落問題研究集会

1974 年 6 月 9 日に、第 2 回岡山県定時制高校生部落問題研究集会が、倉敷市立工業高校で開かれた。この集会は、新しく設けられた定時制ブロック事務局を中心にとりくみ、県下各地から 19 校 128 人の生徒・教師が参加して、(1) 部落問題の基礎的学習、(2) 学校と職場との関わり合い、(3) 部落研・社研活動と HR・生徒会活動との関係、という三つの分科会に分けて学習と交流を深めた。

午前中、全体会では、事務局校の校長の開会あいさつの後、備南高校の生徒より経過報告。引き続き、二つの特別発言があった。(1) 市立玉島高校の生徒より、紡績労働者の生活——「企業は学校に対して無関心であり、夜勤等で毎日の生活が大変苦痛である」ことを訴える。(2) 市立児島高校の生徒より、卒業式のとりくみ——「未来は青年のものです。『働くものこそ歴史の主人公』」という言葉に噛みしめて欲しいと思います。」(2 年生送る言葉)の報告がスライドと録音テープによって説明された。この報告は、生徒の手で卒業式を成功させることができたということで参加者に深い感動を与えた。

その後、各分科会に分かれ、自己紹介と午後からの討議の柱を立てた。昼食休憩の時間、備南高校の先生の指導のもとに、大声で歌を歌い、参加者が打ち解けて話し合えるようになった。

【第 1 分科会】“初めてとりくむ人のため”ということで、「部落の歴史および現状」「定時制高校生と部落問題の関わり」の二つの講演を聞き、これをもとに討論する形式をとった。

【第 2 分科会】「学校と職場のかかわりあい」について、①仕事と学校の

両立と時間の問題、②寮生活と男女交際、③欠席遅刻の問題と先生とのかかわりの三つの柱を立てて討議した。残業を頼まれると、学校へ行かせてもらっているという考えが頭にあるのか、断りきれない状態であることが出された。これに対しては、勤労学生の学習権の保障の問題として捉えなければならない、残業の問題は、学校側から会社へ交渉すべきではないかとの意見が出された。また、会社の送迎バスの問題——授業終了のチャイムが鳴ると大急ぎでバスに乗り込まねばならないので、先生と話せないことも出された。勉強しようと思うと、睡眠時間を削らなければならない、自由時間はとても考えられないことも話され、定時制高校生の実情が浮き彫りにされた。

【第3分科会】備南高校及び松山高校の社研活動の報告と、全体会で報告された市立児島の卒業式のとりくみを素材に「部落研・社研活動とHR・生徒会活動とのかかわり」について討論した。ある女生徒から、「社研は皆から白い目で見られている。話していても反発されるだけだから生徒会にはタッチしないのだ」という発言があり、仲間づくりをめぐって話し合った。

市立児島・松山から、クラスノートや班ノートを作ったこと、長欠している友達の所に連日行って誘ったことなどが話された。最後に、社研・部落研活動では“・・・だから仕方がない”と諦めないことが大切だということ、部落問題への取り組みと同時に自分たち自身の問題、身の周りの問題に目を向けていくことの大切を確認して分科会討論を終わった。

最後に、会場校の教頭の閉会あいさつがあり、大きな声で歌を歌って、この集会を終えた。

おわりに

備南高校時代（前半）の1973・74年の2年間は、年齢的には31・2歳で教員生活も10年目を迎えた時期である。若くて元気があり、何事も「前へ前へ」と突き進んでいた。自己顕示欲が強く、年配の先生方への配慮に欠け「生意気」と批判されたこともあった。

当時、二組の仲人をした。

一組は生徒同士の結婚である。家庭事情が複雑な生徒を励まし結婚にこぎつけた。二組目は先生と生徒の結婚である。学歴の違いを気にする両方の親を、私の経験などを話し説得し、式を挙げることができた。

この2年間は 憲法14条（法の下での平等）に基づく高校部落研、28条（労働基本権）に依拠した組合活動に全力でとりくんでいた。こうした私の活動が、当時高教組の役員をしていた長岡先生の目に留まり、組合本部に来

ないかと声をかけられた。次号から高教組役員時代（1975 年 4 月～ 80 年 3 月まで）を書いていきたい。

特集

2021年定期総会 返信ハガキの紹介

〈岡山支部〉

青山 一郎

心の底から「一郎ガンバレ」の声が次第に消えています。何するのとも気が進まずどっぴり老人につかってしまった今日この頃です。

安東 誠

議案に賛成し、高退教の一層の発展を期待しています。共にがんばりましょう。

9月で92歳になります。2019年に発足した灘崎9条の会の毎月9日のスタンディングには皆勤、不思議にいつも好天なので「晴れ男」などとはげまされています。国塩忠明さん代表の「哲学カフェ」や地域の集まりでの交流から元気をもらっています。会員のみなさんのご健勝をいのります。

石原 律子

東京オリパラ後、変異株「日本型」にならない事を祈るのみの この頃。

磯部 作

返信が遅れて申し訳ありません。

海ごみ問題や災害問題などの調査研究に取り組んでいます。また時々孫守もしております。

議案書10頁で「豪雨被害の被災者支援活動に積極的に取り組み『真備水害訴訟』を支援します」は大変良いのですが、肆宴だけでなく、防災についても取り組むこと、特に防災対策の研究・教育にとりくむことを入れていただければ幸いです。よろしくお願い致します。

板津 定邦

全くうっかりして投函期限がとっくに過

ぎていました。誠に相すみません。コロナ禍の今、梅雨の晴れ間を生かして畑作業に、自然から元気を与えられています、畑は雑草の海、自然の旺盛な力にはかないません。大雨・洪水の一部は自然の災害ですが、コロナは政治の無策、人災と言ってもよいのではないかと思います。安倍・菅と続く、国民の願いにこたえようとしない政治姿勢にあるのではないですか。

井上 俊清

40周年記念動画の作成を仰せつかっていましたが、予想外のトラブル続出、やりかけのまま年を越し四苦八苦していました。3月中旬から編集作業が再開できるようになり、5月末に何とか完成間近までこぎつけました。今、一区切りついてほっとしています。

植木 五郎

・総会議案書に全面的に賛成です。
・事務局の方、役員の方に、お世話になり心から御礼申し上げます。

岡田 忍啓

一昨年秋、大学の同窓会で大阪へ、そして年末には高校・大学とも同じ学舎で過ごした友人と「甲子園ボール」（アメリカンフットボールの学生王者決定戦）を観戦しましたが、それから一年半余り、家族以外誰とも会えないとは…。来年には沢山のひとと再会したいです!!

小川 澄雄

「岡山古文書を読む会」で活動しています。コロナのせいで、5月、6月は例会を中止せざるを得ませんでした、7月以降は

なんとかなりそうです。例会休止中も、解読する古文書の宿題を会員に送付して添削をしていたので、忙しさはそれなりにありました。

岡山市立図書館が工事をするため9月からは例会が隣の岡輝公民館となります。

来年度には中央図書館を会場に、古文書の入門講座を実施する予定です。多くの人に受講していただきたいなー、と思っています。

河原 和子

昨春、町内会のクリーン作戦の行事に参加したのはいいのですが、年甲斐もなく重い荷物を持った時、ギクリときました。本当に音が聞こえました。それ以来腰が痛い時があり、年を考えないといけなことがよくわかりました。皆さんも気をつけて下さい。

衣笠 祥子

自粛の生活は1年半になります。楽しみがう〜んと減ってしまいました。参加できる体力のあるうちに“楽しみ”事が増えてほしい。

木村 徳子

コロナ禍でお家時間が増えた分草むしりに明け暮れています。夏野菜も植えました。自分で育てたトマト・きゅうりのとりたては格別です。これが自分の健康法だと思って結構忙しく暮らしています。

小林 軍治

町内会から敬老会の案内がくる歳になりました。

自粛生活が長引いています。体調管理のために毎日散歩(約5000歩)し、買い物などは自転車を利用して、身体をうごかす努力をしています。

日中友好運動では、中国帰国者が立ち上げた「介護事業」を全力で応援しています。

総選挙では、憲法改悪を許さないためにも立憲野党の前進を願っています。

コロナ終息後の子や孫たちとの交流、友や教え子たちとのカンパイ場面を夢見て、日々がんばっています。

佐藤 幸一

非常勤講師をしています。教育課程も変わるのでいつまでできるかなと感じています。

定広 輝海

毎回会報を楽しみにしています。特に近況報告を一番に読みます。さて私は残りの人生を①近くにできた“もみの木”保育園の食材づくり②日本将棋連盟公認の普及指導員としての将棋の普及③政治革新などに自分の持てる力を尽くそうと考えています。また総社市のふぐ料理店への“鴨頭ネギ”大阪のゴマ屋さんへの“白ゴマ”と、頼まれた“商品”の研究もしながら出荷しています。4世代8人が同居する生活ですが充実(?)した日々を送っています。

島田 宏恵

コロナ禍により高退教行事のほとんどが中止・延期になりました。特に作品展・支部交流会・自然歴史探訪は懐かしい方々の会える数少ない機会なので残念です。2年目に入った自粛生活、ストレス発散、心身の健康にと、ウォーキング、軽い運動、油絵や手芸などを工夫しながら続けています。

末石 範子

いつもお世話になります。会員の皆様のご活躍を頼もしく拝見しています。ワクチン接種予約方法、オリンピック開催問題等々???怒りもわいてきます。

地に足を着けて私は日々をすごしたいと思っています。

鈴木 實

唯今、終活中。

但し、新年は息の尽くる迄。

高岡 悦子

しだいに老いていく親と、どんどん育っていく孫たちを見つめながら、わが身の過去と未来に思いをはせます。

武井 靖

左足が人工関節になりリハビリしています。

田中 豊子

。定期総会を中止にせざるをえなかったこと、40周年記念式を定期総会のときに計画していたことも中止になったことは、本当に残念です。

。コロナウィルスの感染がこんなにも長く続くとは思ってもみなかった。人と人との関わり方が、こんなにも難しいことになってしまった。切れてしまったつながりを早く回復させたい。人が集まって話したり、歌ったり……したい。

中村 清子

6月21日コロナのワクチン2回目を受けました。ちょっと心が軽くなりました。

コロナの自粛生活で、気持ちが縮こまっていたんだなあと気づきました。

公民館講座も再開され、水彩画や俳句、絵本の読み聞かせなどの活動ができそうです。

早く日常生活がとりもどけますように。

難波 欽子

故元高退教会長、片山照恵氏の行動が私

の新人教師だった頃から今も支え続けてくださっています。①若い頃の「大山を守る会」会長、②平和や民主運動の署名活動、③平和行進を数日歩く、④戦争体験の冊子づくり、⑤野菜づくり、⑥高退教の旗を大切に作る、⑦私を信じ、応援し続ける。

中山 実典

「農作業ときどき山歩き」の平凡な日々です。時計が止まったような1年半、早く以前の生活に戻りたいです。

花田 千春

コロナの波をまたおこすことが確実なのにオリンピックの強行に怒っています。ワクチンもまだです。お手伝いしている「子ども食堂」も食事がだせません。病院の家族の面会もできないのに海外から人を何万人も集めるなんて狂気としかいえません。

会報いつもお世話ありがとうございます。

山本 和雄

3月で完全退職（再任用）しました。退職時期についてゴタゴタし（私が気をつかひすぎてです）次の職業への接続が上手くいきませんでした。（最終は、倉敷中央、移動1年目でした）

現在無職（失業中です）

山本 和弘

義務感からではなく、自分にとって心底好ましいことを選んで愉しむ退職者生活をめざしていましたが、なかなか思うに任せません。高退教事務局・会報編集係のほかにも、「子育て教育なんでも相談ネットワーク」相談員、年金者組合県執行委員・支部書記長などなど、草鞋の数は減りません。ま、やれることしかやらないと居直りを決め込んで、ゆるゆる参ります。

横田 春美

年を重ねると歩行困難となり現在は老人施設へ入所しています。それでも幸いなことに「昔取った杵柄」の諺通り、茶道具を持ち込んでホームの皆さんと茶の湯を唯一の楽しみとして過ごしています。

横田 廣太郎

コロナ禍の影響で、公民館活動・ハンセン病講演会をはじめ各種の行事が中止されて、外出が制限された。緊急事態宣言が明けて、各種の行事が戻りつつある現在(6月24日)、書道展等の開催も容認されるようになってきた。我々一門の墨友会展も8月末に予定されているので、急ピッチで準備を進めているところである。例年通りにはいかないが、2年に一度の発表展示会に向けて努力をしている。今秋には、ハンセン病講演会及び長島フィールドワークの実施も許可されると考え、今準備を進めている。

吉野 一正

役員・事務局のみなさん、いつもお世話になります。感謝です。

コロナがこわいので、ひきこもり状態です。体調はここ数年良しです。ただし、社会参加は激減しました。

和田 茂

2021年度活動計画(案)は私達をとりまく今の社会情勢や問題点がていねいに記述されていると思いました。興味深く読みました。

和田 知恵子

リハビリ散歩を楽しんでいます。
お世話になります。

〈備南支部〉

綾野 静子

コロナ禍にあっても全く日常は変わらず!! 我ながら驚いています。退職以来、外出が思い通りにいかない生活を送ってきましたので、この期に及んでも泰然自若。いいのか悪いのか!?

石川 昌宏

白内障の手術を受けました。眼は20代になりましたが、その他は70代です。まだ非常勤講師をしています。

岡田 純爾

日本の政治、民主主義の劣化が進み、民主主義後進国になりつつあるのを憂います。体力の衰えと共に意欲、気力のおとろえを覚えています。今年は年2箇所での講演(国際医療関係)を予定しています。

加村 正義

「オモテナシ」が「ロクデナシ」と聞える
と以前ラジオでH. Kさんが言っていました。(同感)思い出とスローガンだけで、この状況下オリ・パラを本当にやるのでしょうか。

関係文書は穴埋めパズルだし、医療費は上がるし、濁りきっていますね。澄んだら「ス〇」ということでしょうか。(ゴマメの歯ざしりでした)

鴨川 恵美子

梅雨の晴れ間、シルバーカーを押して、近くの公園を一周して帰宅。体調はボチボチです。もう10年以上にもなる週2回のデイケアの送迎。ほとんど休まず真面目に通っています。難聴やコロナ禍で、会議がないのが、私には好都合なこともあります。残った趣味のピアノは、毎日続けていて、ピアノ発表会はコロナ禍もあり中止となり

ましたが、レッスンは2週に一度、先生が来宅して下さって続けています。時間つぶしにクロスワードクイズだけ、脳トレだと思って試みます。投稿はボツも多いですが、時に掲載され、反応があるとうれしいです。

萱 栄次

人の名前を思い出すのに「あいうえお」の順番で確認することが多くなりましたが、何とか毎日を送っています。

平松 芳子

今年も日頃は総会その他の行事が中止になり残念です。

私は退職して26年になりますがお陰様で健康で夫の看病に日夜努めております。毎日を少しでも楽しみ乍ら丁寧に生きていきたいものと思っています。

今後共よろしくお願い申し上げます。

藤原 斌

コロナの感染予防のため、何もかも中止にせざるを得ない状態です。準備をして下さっていた地区別交流会の中止、延期にしていた40週記念の行事ができなかったこと、会場も予約していた作品展を断念したこと、自然歴史探訪の早期再開ができなかったことなど、本当に残念です。

私の講座も5月中旬から約一ヶ月休みになり、予定表に書いていた行事のすべて×でした。

夏の楽しみであった旧児島高校国語科の仲間との旅行は、またまた断念しました。オリンピックは開催されるというのに…

本田 義武

日頃の憤りが議案に集約されていて少しだけ心が晴れましたが…

二度目のコロナワクチン接種で副反応があり、頭痛、発熱等で一日寝てしまいました。

た。マスク着用にも苦しめられています。教室までたどり着くと、空いた席で一休み、深呼吸を何度かした後、授業開始、45分のことですが疲れます。年齢の所以でしょうね。

三宅 ちはる

事務局の方々へ。この度はご挨拶もせずいきなりすみません。仕事や家の事が重なり、身動きとれなくなりました。数回しかお手伝いできませんでしたが高退教の先輩方はなんともいい感じで楽しくすごさせていただきました。ありがとうございました。

白内障の手術をしたら手もとが見えなくなり、老眼鏡が必要となりました。なんてこった！

村田 拡

会費納入方法についてお願い。ATMは使いたくないので、事務局負担減にするなら青の振込用紙に変更して下さい。いずれにしても出費は会費からです。（朝三暮四！！）会費値上げでも可。

山縣 武次郎

コロナ禍、「晴耕」は、夏草問の「雨読」は、居眠りとのたたかいです。地を愛するという哲学に挑戦。獄死（1945, 9, 26）した三木清の著作をバースに学習。そんな中、あの偉大なヘーゲルがアシヤ・コレラに感染し「3日ころり」と逝ったと（1831, 9月、61才）。2回のワクチンで安心していますが…。三木清を思い、街頭スタンディングやっています。

山口 京子

いつもお世話になります。

緊急事態宣言下で、公民館、図書館など閉鎖になり、サークル活動が全てできなくなり、岡山の友人とも全く会えず、さみし

く暮らしていました。本当のコロナ終息にはまだまだですね。コロナが教えてくれたことがたくさんあります。それを乗り越えてより良い社会をめざしたいです。今後ともよろしくお願いします。

依田 清

コロナ禍で世の中が一変したように思う。人の温もりを阻害し、人間関係が疎かになったようだ。一方、デジタル化で老人は変化について行けなくなる。長生きして喜びを味わいたいものだ。

〈旭東支部〉

荒木 敏和

HPの「お知らせ」で確認せずに、作品出品票を送ってしまいました。
HPが進化していました。更なる完成度の向上を期待します。

池上 貴久雄

懐かしいお便りありがとうございます。
長生きはいいけれど、難聴には困っています。高価な補聴器、効果の方は？！
奥さんに助けてもらっています。

井上 進夫

新型コロナウイルス感染予防のため窮屈な生活が続いています。早く普通の生活に戻りたいです。

岸本 幹雄

今年3月で再任用フルタイムが終了し、4月からは年金生活スタートしました。ただし週4時間の非常勤講師（東岡工）をしています。また野菜づくりやブドウづくりの農作業をしています。3月23日に長女に初孫が産まれて「じいじ」になりました。コロナの影響でなかなか会えません…。

竹内 良雄

いつも欠席で申し訳ありません。昨年9月に怪我をし、その後遺症が今も首・腰・足の痛みとなって毎日を過ごしています。いい歳をして高いところへのぼったりしてはいけませんね。眼の方も頭の方も歳以上にボケたりカラッポになったりです。おたがい高齢者は自己管理に励みましょう。現政権の無能さいいかげんさには腹がたちますね。閑谷学校・鏡石神社などのご案内は可能ですよ！

辰田 芳雄

真庭市蒜山郷土博物館で「蒜山陸軍演習場の全貌―守り、伝え、誓う」が展覧会（月12日まで）です。蒜山高校の辺りを中心に旧陸軍演習場が展開していて、毒ガスの実験も行われていたことなど、現存する資料や証言など焼く100点が紹介されています。館長の前原茂雄さんの努力により数多くの事実が発掘されました。県南の方も是非足を運んでください。展示解説会も準備されています。蒜山原は戦争遺跡で歴史の証人です。

中野 正勝

定年後の組合費倍増（200%）反対！

三宅 通明

小学生の時の長〜い夏休みがず〜と続いているような、そんな毎日を過ごしています。野鳥写真を撮りに山中・林中を走り回ったり、小さな家庭菜園で野菜をつくったりして過ごしています。

吉永 隆光

スガ政権の国会軽視は許せません。市民と野党の共闘で政権の交代を実現すべきです。ともにがんばりましょう。

小生、腰痛が進み、思うように動けなく

なりました。86 歳も半ばを過ぎましたが、できる事でがんばりたいと思います。総会議案賛成です。

〈備西支部〉

青木 精一

経済的格差だけでなく、教育・社会・精神格差が拡大しているようで憂慮しています。安倍内閣がますます悪くした。

浅野 秀夫

コロナワクチン2回目の接種が6月11日に完了した。1 回目は身体に何も影響はなかった。2 回目は発熱など副反応を心配したが、ちょっと腕が痛いかな程度で幸いでした。

岡田 潤

会員の皆様のご健康と貝の弥栄を祈念いたします。

岡本 チェ

日々の買物、病院通い以外は出かけることなく過ごしています。その日食べる野菜の収穫、限りなく続く草取りなど、することはいっぱいあって、けっこう充実しています。「ローマ人の物語」43 冊をもうじき読み終わります。ローマ帝国の遺跡を見る旅ができたらいいなと夢見ています。

木村 信行

体の不調はあるものの、なんとかやっています。

武田 芳紀

定期総会の議案評決、三案とも賛成です。（と言うか）ふだんは会場でパラリとめくって、目を通す程度ですが、今回はていねいによませてもらい、特に活動計画（案）の「情報分析」はゆき届いた目配りに感心しました。特に菅政権は「安倍政治」の「継承

者」であるのみならず、より悪質で、陰險な手口を用いて「憲法改悪」へと突き進もうとしていることに警戒を要するという指摘に同感です。

昨年より、ローカルテレビの地域探訪の番組（玉島テレビ「アミッション」）の制作に協力（ゲスト出演と事前調査）しています。教職での経験が、思わぬ形で役立っています。

西 功

元気に過ごしておりますが、新型コロナのために、日常生活が大きな影響を受けていて、気分のすぐれない日々をすごしております。ボランティアも中止。合唱団は練習も演奏会も中止。演劇鑑賞会も座席数の制限等々。毎年夏の学友の登山に便乗してのミニ同窓会も中止となり、楽しみな事が出来なくて寂しい思いをしております。高退教の各行事、とりわけ自然歴史探訪の早い復活を願っています。早く終息してほしいですね。また、コロナ後の社会（世界）がどうなるのかも心配です。

西野 教子

一日一日を頑張っています。

西牧 利典

日本の財政、経済の破綻がますます現実味をおびてきました。今こそ、経済財政について語る必要がある、と感じます。

三宅 幸良

大した変わりばえもせず（高齢者にとって変わりが無いということはある意味で喜ばしいことですが）のんびりやっています。

〈備北支部〉

相木 トシ子

いつもありがとうございます。

元気に過ごすことが出来ており、ありがたいことだと思います。今は実家の草刈り大事な仕事になっております。

石井 美鶴

お世話になります。よろしくお願いいたします。

磯田 泰枝

お世話になります。よろしくお願いいたします。

大久保 緑子

再任用4年目を何とか頑張っています。

年々時間の流れがスピードを増し、多忙化が進んでいます。もっと「ゆっくり、じっくり」生徒と向き合いたいですね。

西村 毅

いつもお世話になります。

学校現場を離れるのはやはり寂しいものですが、今は農作業に精を出し、日々元気に過ごしています。

菅政権に対して不信感が募るばかりですが、正しい事をやっているのでしょうか。

福本 光子

役員の皆様には、大変お世話になっております。

私にとって会報は、かつて教育へのあつい想いを共有した仲間との絆であり、学習の材料でもあります。ありがとうございます。

山本 浩

相変わらず緑と戯れる毎日を送っています。

早くコロナが収束して伸び伸びと外出や集会の出来る事を望んでいます。傘寿が近づいて、あちらこちらと痛い痛いと言いながらも、ポジティブに生活しています。

〈美作支部〉

産賀 俊治

岡山県議会での選択的夫婦別性に反対する意見書の可決については書かれていますが、岡山県家庭教育応援条例（仮称）については記述がありません。この二つはセットとして特定の古い家制度を強制し、多様性を否定するものです。高退教としても反対していく必要があるのではないのでしょうか。

高階 重和

ご奮闘有難う存じます。

垂井 一新

年々体力・筋力の低下を自覚するこの頃です。右手親指にバネ指症状と痛みが出る。作業アト翌日には鼠蹊部に痛みが出て歩行もままならなくなるなど痛みが行動に制限（ブレーキ）をかけてくるこの頃である。周りの人に、かかりつけの医師に相談するも、よい解決策もなし。このままでは百姓もたたまなければ、ということも浮かぶなどマイナス思考になってしまう。

これからの予定も加齢とともに大きな曲がり角になって来たか？

コロナ予防接種2回目完了。

友直 久徳

私は岡山支援学校を定年退職後、社会福祉法人旭川荘のあおば・みどりという職場で非常勤講師として週2日働いている73歳です。仕事は知的障害者と一緒に竹を切ったり割ったり、それをエコタンという機械に入れて焼き、竹炭をつくったり竹の中から出てくる液、竹酢液をつくったりしてい

ます。竹炭は乾燥湿気を防ぐため冷蔵庫や靴箱に、竹酢液は動物の害を防いだり作物の成長にたくさん使われています。障害者の給料は物が売れないと出ません。千円あれば買えます。ご協力よろしくお願いします。

春名 恵吉

御無沙汰しております。

最近老人性アハウ症という病気が悪化しており、令和5年の免許更新が心配です。毎日、津山朝日の「お悔やみ」欄と、赤旗N版の「あたまのストレッチ」を見て暮らしています。今回は以上で失礼します。

山本 宣子

私の住む美作市議会議員の選挙で、市民派議員が多数落選されとてもつらい思いをしています。

先日、美作市庁舎・防災公園建設特別委員会を傍聴に行ったところ、予想通りの議会で、税金が市民のために使われそうになく、いっそうがっかりしました。

山本 美佐緒

お世話になります。

山本 豊

コロナ禍の中、本当にオリンピック、パラリンピックが始まるのか。再びインド株など異変株によるパンデミックになったら…。多分自民党は…。旧日本軍と同じ運命を辿るのでしょうか。

他70名の方からの返信がありました。ありがとうございました。なお、すべて、総会議案には賛成の意向を表明していただいていたのでご報告します。

♪♪♪♪♪

編集後記

◆コロナ禍のもと、定期総会も作品展も開催できず、従ってその記事が「会報」に載せられないのは、実に編集者泣かせです（涙）。◆ですが、全退教初のZOOM総会での、萱会長の報告のとおり、コロナ禍の中での「わざわざを福に変えた」のは、会員の方々の声の掲載。今号も、総会議案への賛否を問う返信はがきに添えられた皆様の近況報告やコメントを、会報のメインに据えさせていただきました。（なお、文字の打ち込み作業は、すべて藤原事務局長が担ってくださいました。多謝）◆「灘崎九条の会」のとりくみは、編集子の地元の活動でもある関係から、当会報でも何度か話題にしましたが、今回学習会での安東誠さんの論考は、私にとって、子ども・教師・父母たちの苦痛の根源を解き明かす上で、目からウロコの内容でしたので、是非広くご紹介したいと思った次第。◆小林軍治さん、武田芳紀さんから、ひきつづき連載記事を寄せていただきました。ありがとうございました。なお、武田さんの記事で紹介のあった彫刻家金盛秀禎さんは、県内の中学、高校、短大で美術教育に携わってこられましたが、高校では高梁工業、総社南高に在職され、高教組の運動にも熱心に取り組まれました。高退教メンバーにも、当時の同僚、後輩などゆかりの深い方も少なくありません。以上、編集部へのご指摘もありましたので、改めて付記しておきます。（山本）

♪♪♪♪♪